



12の星座はだれの手に? 十二星座ほしとりレース

太陽の通り道“黄道”では太陽系惑星たちが楽しそうに、太陽の周りを踊っています。星座たちは自分たちも黄道をめぐらそうと先を争っていました。その目に余る行為に、ついに太陽の怒りが爆発したのです。「次に私が黄道に来る日、私の前に早くやって来た順に、十二番目までの星座を私の通り道においてやろう」こうして『十二星座ほしとりレース』が始まったのです。～十二支が誕生した経緯になぞらえた、もうひとつの十二星座誕生のものがたりです～

投影時間 25分 対象 幼児～家族向け

登場人物 おひつじ・おうし等十二星座,太陽,ペルセウス,くじら,他

素材 スライド/120枚&VTR/12分、全天周デジタル版



1 「頑張っても、十二星座に入れない」という主人公おひつじに、おうしは情けないと嘆きながらも、気のやさしい彼を一番にやることにするのです。神々の王ゼウスである自分が、一番になるわけにはいかないからでした。



2 レースに参加する気のなかったおひつじでしたが、家に帰る途中、ゼウスの命を受けた勇者ペルセウスに誘導されたり、偶然アンドロメダを狙ってやってきたクジラに追われながら、あれよあれよという間に一着になりました。



3 これを見届けたおうしは、悠々と二着に入るつもりでしたが、思わぬ邪魔が入りました。オリオンが決闘を挑んできたのです。おうしは戦うふりをしながら、じりじりと後ずさりし、まんまと黄道へ到達したのでした。



4 おうしの姿をしたゼウスは、ぎょしゃを巻き込み、オリオンと戦わせることで、その隙に息子カストルとポルックス(双子座)を三着にすることに成功。この決闘は長引き、オリオンの猟犬(大犬・子犬)も参加しませんでした。



5 カニとしは疲れ果てながらも、最後の力を絞り争っていました。そこで、カニの友だちの海ヘビが知恵をだし、コップ座の水を飲み、カニは元気に。六分儀を道案内に四着に入り、その後を追い、ししも五着になりました。



6 おとめは正義と天文の神として、長く地上で務めていました。レースのことを知りませんでした。黄道へ挨拶に来て六番目の星座に任命されました。そして、おとめの推薦で、正義を計る天秤も七番目と認められたのです。



7 毒を持ったままサソリを黄道に行かさぬよう、医者蛇使いはヘビから毒を消す薬を作り、サソリに飲ませます。サソリは黄道に辿り着きますが、蛇使いは、親代わりの射手に九番目の席を譲り、見張役を頼むのでした。



8 懸命に駆けてきたヤギでしたが、間に合わないと天の川に飛び込みます。その途端、下半身が魚に変わり、泳いで十着となりました。慌てた水瓶はお酒をこぼしながらもゴールイン。南のうおはそのお酒に酔ってしまいました。



9 ペガススが最後を飾ろうと翼を広げ、黄道めぐり舞い降りしようとした時、うおの母子が天の川から助けを求めてきました。ペガススは迷いながらも母子を助けてやり、十二番目の席も譲って、晴ればれと天空の彼方に去っていくのでした。



10 十二星座が勢揃いしたのを眺め、太陽は満足げ。りっぱな十二星座の一員になってきたおひつじに、おうしも嬉しそうです。この天空の光は、きっと地上にも届くよねと言うおひつじに、おうしが応えます。地上も争いのない、光に満ちた世界にきつとなるだろう。